

# 社会

社会科においては、社会的事象の特色や意味などについて考え、表現する力を育むことが課題です。そのため、児童が見方・考え方を働かせて考え、表現することができるよう、学習指導要領の目標を踏まえて評価規準を設定すること、単元を通した問題解決的な学習過程の充実を図ること、児童が主体的にICTを活用して考えたり、表現したりできるようにすることが求められます。

## I 目標の明確化や評価の充実のポイント

社会科においては、育成を目指す資質・能力を育むため、学習指導要領に示された指導事項を確認し、単元の目標と学習活動をセットで描くとともに、右の図のように、目標を達成した児童の姿を評価規準として具体的に設定し目標や学習活動と一体化を図ることが大切です。

目標	○主な学習活動	評価方法【評価規準】
北海道の自然災害の様子について、北海道地図や資料から気付いたことや疑問に思ったことを表現できるようにする。	○1人1台端末で北海道の地図画像上に自然災害の写真を示す。 ○個々のスライドを学級全体で共有する活動により、地域で多く起こっている自然災害に着目して問いを見だし、単元を通した学習問題をつくる。	発言内容やスライドの記述内容から「過去に発生した地域の自然災害に着目して、問いを見だしているか」を評価する。 【思-①】

【1単位時間における「目標」、「学習活動」、「評価」の一体化】

特に、社会科における「思考・判断・表現」

の評価規準では、児童がどのような社会的事象に着目して、どのように考えたり表現したりしているか、などについて、具体的な姿で設定することが大切です。

## II 指導計画の改善のポイント

社会科においては、単元を通した問題解決的な学習過程の充実に向け、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習活動に取り組むことができるようにすることが大切です。児童が見方・考え方を自ら働かせて社会的事象の特色や意味を考えていくために、学んだ事象の相互関係を理解し、概念化を図る活動などがポイントとなります。

また、政治の働きへの関心を高める学習では、社会に見られる課題を把握し、解決に向けて自分たちの行動の仕方やこれからの社会の発展など、よりよい社会の在り方などについて考える主権者教育へとつなげていくことも求められており、こうした学習場面では、考え選択・判断したことの根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、他者の主張を踏まえて議論したりするなど、言語活動を一層充実させていくことがポイントとなります。

## III 手立ての充実のポイント

社会科においては、児童が主体的にICTを活用することにより、社会的事象の特色や意味について考えたり、表現したりできるようにすることが大切です。児童が1人1台端末を用い、社会的事象の情報を収集し、その情報の意味について説明するなどの活動や、1人1台端末でクラウド上の情報を共有し、共通点や相違点を交流する場面を位置付けるなど、「教師のICT活用」から「児童のICT活用」に変換していくことが重要です。

そのためICTを単元のどの学習場面で、児童がどのように活用すると効果的な学びとなるのかを明確にした授業デザインがポイントとなります。



## 社会的事象の特色や意味などについて考え、表現する力を育む計画の改善

### <単元名>

「自然災害からくらしを守る」(第4学年)

### <単元の目標>

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、自然災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとし、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする。

【Ⅰ 評価規準の明確化】

・学習指導要領で単元の指導事項を確認して目標と評価規準をセットで描き、単元を通して全観点の学習状況を見取るようにしている。

<単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり、地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。 ②地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりしながら、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちで協力できることを考えようとしている。

<単元の指導計画 (10 時間) >

学習過程	学習活動	評価規準・評価方法等	その他の事項
<b>課題把握</b> (1~3)	○1人1台端末で北海道の地図画像上に自然災害の写真を示すことで、北海道の自然災害が、過去にどこで発生していたのかを知り、 <b>自然災害や自然災害からくらしを守る取組への興味や関心を高める。</b> ○個々のスライドを学級全体で共有する活動で、 <b>地域の自然災害の特色として、雪害が多いことに気付く。</b> ○個々の課題意識を学級全体の課題意識としてまとめ、 <b>単元を通した学習問題をつくる。</b> 【学習問題】雪害から命やくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろう。 ○学習問題の解決に向けた活動を考え、 <b>学習計画を立てる。</b>	[思・判・表①] 発言内容、端末で作成したスライドの記述内容  [主①] 発言内容、ノートの記述内容	【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・他の児童のスライドと比較し、自分が気付かなかった共通点などを読み取り、新たな気づきをスライドに加筆している。  【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・学級全体でのスライドの共有で、個々が調べた結果の共通項を見いだし、単元を通した学習問題としてまとめている。
<b>課題追究</b> (4~8)	○家庭ではどのようなことをしているか資料や聞き取り調査で調べ、話し合う。 ○防災ハザードマップの取り扱いについて、分かることや疑問を話し合う。 ○市役所ではどのようなことをしているのか資料を基に調べ、話し合う。 ○市役所と関係機関は、どのように連携しているのか資料を基に調べ、話し合う。 ○住民同士でどのように助け合っているのか資料や体験を基に調べ、話し合う。	[知・技①] 端末で作成したスライドの記述内容  [知・技②] 端末で作成したスライドの記述内容	【Ⅱ 学習計画の共有】 ・設定した学習問題の解決に向けた活動を児童自ら考え、計画していくことで、課題追究の場面において、意欲的な情報の収集の活動へつなげている。
<b>課題解決 新たな課題</b> (9~10)	○「自助」「公助」「共助」の視点から <b>学習問題に対するまとめを考え、1人1台端末でスライドに表す。</b> ○作成したスライドを交流し、 <b>学級全体で学習問題に対するまとめを確認し、これまでの学びを振り返る。</b> ○雪害以外の自然災害を視点に同様のことが考えられるか、話し合う。 ○様々な自然災害に備えて、 <b>自分たちができることについて考え、話し合う。</b>	[思・判・表②] 端末上の付箋の記述内容 端末で作成したスライドの記述内容  [主②] 発言内容、ノートの記述内容	【Ⅲ 1人1台端末の活用】 ・スライドを共有し、児童相互のやりとりの中で共通点や相違点に気付くことができるようにしている。
【Ⅱ 政治の働きへの関心を高める内容の充実】 ・自分たちの行動や生活の仕方、よりよい社会の在り方などについて自らの社会生活を視点に考えるようにしている。	【Ⅰ 学習評価の改善】 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点の実現状況を「思考・判断・表現」の観点を見取る活動と同じ活動で見取ると、目標を達成した児童の姿が明確に描けないことから、1つの学習活動につき、1つの評価規準を設定するようにしている。		